



校長室だより

第 6 号

令和 8 年 8 月 26 日
大阪市立桜宮小学校
校長 岩井 伸夫



◇◇ 平和について ◇◇

今年の夏休みも、昨年度同様 40 度を超すところもある酷暑続きの日々でした。熱中症対策をとりながらの厳しい夏となりました。戦後 81 年。今年も平和について考える日がありました。8 月 6 日のヒロシマ原爆投下の日には、こども代表による平和への誓いが読みあげられました。

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。

私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。

今もどこかで、当たり前の日常がうばわれています。

ぼろぼろになった制服。

黒く焦げたお弁当箱。

それは、当たり前の毎日を生きていた証です。

昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日、午前 8 時 15 分。

たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。

髪は焼けちぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷した皮膚が垂れ下がった人々。

「痛いよ。苦しいよ。」

「助けて、お母さん。」

「死にたくない。」

「助けてあげられなくてごめん。」

死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、

当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。

悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島の子供として、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

令和 8 年（2026 年）8 月 6 日

こども代表

広島市立高須小学校 6 年 柿崎 由宇

広島市立高南小学校 6 年 河野 和希



この平和への誓いを、子どもたち一人一人が自分事として受け止めて、自分にできることを考えて
いってほしいと思います。

8月6日ヒロシマ原爆投下の日とともに8月9日ナガサキ原爆投下の日、8月14日京橋大空襲、
8月15日終戦記念日。これらは、平和を願い、子ども達に語り継いでいかなければならない日です。
テレビや新聞などでも戦争や平和に関する報道が多くありました。平和を願っている現在でも、ロシ
アによるウクライナ侵攻、イスラエルとガザ地区の問題など、世界では人々の平和が脅かされる事態
も起こっています。戦争は遠いところの話ではなく、この大阪の町も爆撃を受け、多くの方が亡くな
ったことや焼け野原になったこと、食べるものや着るものもなく、住むところもなくした多くの人々
がいたことなど、お子さんに伝えてあげてほしいです。そして、焼け跡から立ち上がった人々の努力
の積み重ねによって、現在の日本があることも伝えていただきたいです。何もせずに平和を守ること
はできません。平和は、平和を求める人々の努力の上に築かれるものです。

学校でも、平和の大切さや命の尊さについて様々な場面で伝えています
が、ご家庭でもお子様の年齢に応じて話していただければと思います。



熱中症対策のため

- ◎ 水分補給をしっかりととれるように、水筒には多めに
お茶やお水を入れてきましょう。
- ◎ 帽子をかぶって登校するようにしましょう。

